

細胞培養技術

Weekly Intelligence Report

2026-04-26 | 12件 | 5カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

in vivo CAR-T

生体内遺伝子導入で治療革新

12

件
記事数

5

カ国
対象国

臨床段階

in vivo CAR-T

10倍

向上
培養脂肪生産

今週的全12記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性：ブレイクスルー度合い 実用化距離：製品として使える近さ 市場インパクト：業界全体への影響規模
データ信頼性：定量データ・査読の有無 日本関連度：日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#01	WuXi成都工場完成	企業戦略	●●○○○ ○	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	WuXi Biologicsが中国成都に大規模微生物バイオ医薬品製造拠点を建設、2026年末稼働目標。
#02	Sartorius好決算	市場概観	●●○○○ ○	●●●●● ●	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	Sartorius Stedim Biotechが堅調な第1四半期業績を発表、バイオプロセス消耗品が牽引。
#03	LonzaとIBF提携	企業戦略	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	●●○○○ ○	●●○○○ ○	LonzaがIsrael Biotech Fundと提携し、ポートフォリオ企業のバイオ医薬品開発製造を支援。
#04	培養脂肪生産向上	学術論文	●●●●● ○	●●○○○ ○	●●●●● ○	●●●●● ●	●●●○○ ○	Roslin Instituteが特定の幹細胞タンパク質CD133が培養脂肪生産を10倍以上向上させることを発見。
#05	CDMOのAI自動化	技術導入	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	●●●○○ ○	●●●○○ ○	Rentschler BiopharmaがAI駆動の自動化を導入し、医薬品開発プロセスの効率化を推進。
#06	Eli LillyがKelonia買収	企業買収	●●●●● ●	●●●○○ ○	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ○	Eli Lillyがin vivo CAR-T細胞療法技術を持つKelonia Therapeuticsを買収、次世代がん治療を推進。
#07	主要バイオプロセス技術	解説記事	●●○○○ ○	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	●●●●● ○	2026年に医薬品業界を変革する8つの主要バイオプロセス技術（シングルユース、デジタル変革など）を解説。
#08	Samsung Biologics成長	企業戦略	●●○○○ ○	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	Samsung Biologicsが記録的な成長と米国事業拡大を発表、グローバルCDMOとしての地位を強化。
#09	遺伝子治療製造提携	企業提携	●●○○○ ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	●●○○○ ○	●●●○○ ○	Andelyn BiosciencesとENCellが遺伝子治療製造で提携し、グローバル展開を加速。
#10	Danaher好決算	市場概観	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	Danaherのバイオプロセス事業が好転、CytivaがmRNA精製プラットフォームと自動灌流システムを発表。
#11	コオロンCDMOアピール	企業戦略	●●○○○ ○	●●●●● ○	●●○○○ ○	●●○○○ ○	●●●○○ ○	コオロンバイオテックが「バイオコリア2026」で細胞・遺伝子治療向けCDMOの競争力をアピール。
#12	Thermo Fisher好決算	市場概観	●●○○○ ○	●●●●● ●	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	Thermo Fisher Scientificが好調な四半期決算を発表、ラボ製品とバイオファーマサービスが成長牽引。

●●●●○ 高 ●●○○○ 中高 ●●○○○ 中 ●○○○○ 低 | 背景黄色=注目記事

今週、判断に影響する3つの問い

① in vivo CAR-Tは既存治療を凌駕するか？

Eli LillyがKeloniaを買収し、体内でCAR-T細胞を生成するin vivo遺伝子導入技術（iGPS0）を推進。従来のex vivo CAR-T療法が抱える高コストや製造の複雑性を解決し、治療アクセスを劇的に改善する可能性を秘める。この技術は、既存のCAR-T治療の設計思想を根本から変えるか、あるいは新たな市場を創出するのか、その動向を注視する必要がある。

② 培養肉のコスト課題は解決に向かうか？

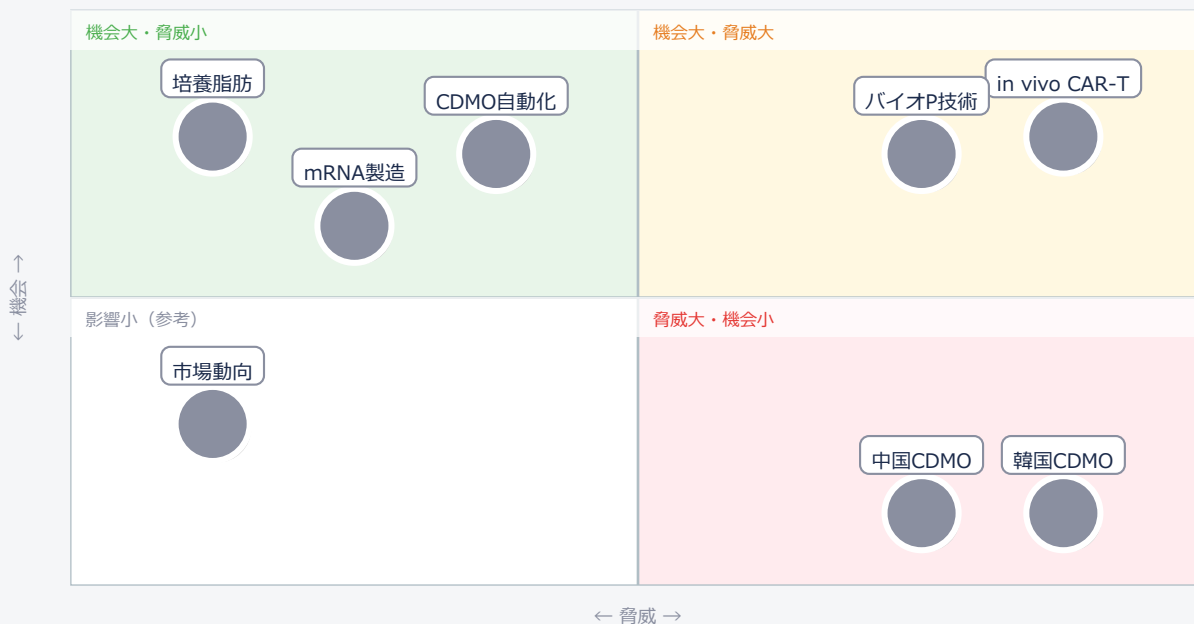
Roslin Instituteが、牛の幹細胞の表面タンパク質CD13が脂肪生成能力を10倍以上高めることを発見。培養肉の風味や食感を左右する脂肪の効率的な生産は、高コストが課題の培養肉産業にとってブレイクスルーとなる可能性がある。この発見は、培養肉の商業化を加速させ、食肉産業のサプライチェーンにどのような影響を与えるか、その実現可能性と市場への波及効果を評価すべきである。

③ グローバルCDMOの競争激化は日本企業に機会か脅威か？

WuXi Biologics、Samsung Biologics、Lonza、Andelyn/ENCellなど、主要CDMOが大規模な設備投資、戦略的提携、AI導入を進め、グローバルな製造能力と効率を急速に高めている。特にアジア勢の台頭は顕著であり、日本の製薬・バイオ企業は、この競争激化の中で、最適なCDMOパートナー選定や自社製造戦略の見直しを迫られる。この動向は、日本の材料・素材メーカーや設備メーカーにとって新たなビジネスチャンスとなるのか、あるいは既存のサプライチェーンにおける脅威となるのか、早急な分析が求められる。

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス



項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
● in vivo CAR-T	注意	CAR-T治療普及	既存CAR-T陳腐化
● バイオP技術	注意	最新技術導入	技術遅れリスク
● 培養脂肪	機会大	培養肉コスト減	—
● mRNA製造	機会大	mRNA製造効率化	—

● CDMO自動化	機会大	開発効率向上	—
● 韓国CDMO	脅威大	—	CDMO競争激化
● 中国CDMO	脅威大	—	CDMO競争激化
● 市場動向	参考	—	—

深掘り ① — in vivo CAR-T療法：次世代がん治療の幕開け

#06 | 2026/04/20 | Eli Lilly and Company (Press Release) | 技術新規性●●●●● 実用化距離●●●○○
市場インパクト●●●●● データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●○

Eli LillyによるKelonia Therapeuticsの買収は、in vivo（生体内）CAR-T細胞療法という画期的なアプローチを推進するものです。Kelonia独自のiGPS0技術は、改変されたレンチウイルスベクターの粒子を活用し、患者の体内で直接T細胞を標的としてCAR-T細胞を生成します。これにより、従来のex vivo（体外）CAR-T療法が抱える高コスト、製造の複雑性、患者への負担といった課題を大幅に解決し、より多くの患者にCAR-T療法を提供する可能性を秘めています。

Keloniaの主要プログラムであるKLN-1010は、再発・難治性多発性骨髄腫を対象としたin vivo遺伝子療法として、有望な初期臨床データを示しています。この技術は、がん治療のパラダイムを根本から変える潜在力を持つ一方で、体内のT細胞への遺伝子導入効率、オフターゲット効果、長期的な安全性、そして製造スケールアップの課題は依然として大きいと評価されます。

▶ 技術者の視点

KeloniaのiGPS0技術は、患者体内で直接CAR-T細胞を生成する画期的なアプローチです。従来のex vivo療法と比較して、製造コストと時間、患者負担を大幅に削減する可能性を秘めます。初期臨床データは有望ですが、体内のT細胞への遺伝子導入効率、オフターゲット効果、長期的な安全性、そして製造スケールアップの課題は依然として大きいでしょう。【機会】日本の製薬企業は、この技術を早期に評価し、自社の遺伝子治療パイプラインへの導入や、関連技術を持つスタートアップへの投資を検討すべきです。材料メーカーは、in vivo遺伝子導入に必要なベクターやデリバリーシステムの開発に注力する機会があります。【脅威】既存のex vivo CAR-T療法に投資している企業は、技術陳腐化のリスクに直面します。日本のCDMOは、in vivo技術への対応を急がなければ、競争力を失う可能性があります。【次のアクション】R&D部門はKeloniaのiGPS0技術の詳細を調査し、自社技術との比較分析を3ヶ月以内に行う。経営企画部門は、in vivo CAR-T市場の将来予測と、それに対応する事業戦略の策定に着手すべきです。

深掘り ② — サムスンバイオロジクス、グローバルCDMO市場を席卷

#08 | 2026/04/24 | Biotech Reality | 技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●●○
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●○

Samsung Biologicsは2026年第1四半期に、前年同期比25.8%増となる連結売上高1兆2,571億ウォンを達成し、記録的な成長を記録しました。この好調な業績は、既存の1~4工場のフル稼働と、米国メリーランド州ロックビル製造施設の買収による戦略的な事業拡大に支えられています。これにより、同社は米国市場に初の物理的な製造拠点を獲得し、主要なバイオ医薬品クライアントクラスターへのアクセスを強化しました。

同社は、2032年までに仁川松島に「第2バイオキャンパス」（5~8工場）を完成させる壮大な構想を持ち、抗体医薬品だけでなく、細胞・遺伝子治療（CGT）、抗体ワクチン、ペプチドなど、需要が急速に増加している多様なモダリティに対応するための研究・生産施設群を構築する計画です。また、ADC（抗体薬物複合体）製造能力の多様化・強化も進めています。

▶ 技術者の視点

Samsung Biologicsは、既存工場のフル稼働に加え、米国拠点買収と第2バイオキャンパス建設で製造能力を大幅に拡大しています。ADC製造能力強化も進め、抗体医薬品から細胞・遺伝子治療まで多様なモダリティに対応する「エンドツーエンド」サービスを強化しており、CDMO市場における同社の支配力を一層強めるでしょう。【機会】日本の材料・素材メーカーは、Samsung BiologicsのようなメガCDMOのサプライヤーとして、高品質な培地、樹脂、シングルユース製品などの供給機会を探るべきです。部品メーカーは、自動化設備やプロセス分析技術（PAT）の導入ニーズに対応できる製品開発を加速すべきです。【脅威】日本のCDMOは、規模とスピードで圧倒的な差をつけられる可能性があり、特定のニッチ分野での専門性強化や、独自の技術的優位性の確立が急務となります。日本の製薬企業は、CDMO選定において、アジア勢の競争力向上を考慮に入れる必要があります。【次のアクション】調達部門は、主要CDMOの設備投資計画とサプライヤーリストを定期的にモニタリングし、新たな取引機会を特定する。R&D部門は、ADCやCGT製造における最新技術動向を調査し、自社の材料・部品が貢献できる領域を洗い出すべきです。

深掘り ③ — 培養肉のコスト革命：脂肪生産効率10倍の衝撃

#04 | 2026/04/21 | The Poultry Site | 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●○○○ 市場インパクト●●●●○
データ信頼性●●●●● 日本関連度●●●●○

Roslin Instituteの研究者たちは、動物幹細胞に関連する特定のタンパク質CD13が、培養脂肪の生産効率を大幅に高めることを発見しました。この発見は、培養肉業界が直面する高コストと非効率性の課題を解決し、大規模生産を可能にする可能性があります。研究では、表面タンパク質CD13を発現する牛の幹細胞が、発現しない細胞と比較して平均10倍以上の脂肪を生成することが明らかになりました。

このマーカーを活用することで、脂肪細胞への分化能力が高い幹細胞を選別して培養することが可能となり、不要な細胞の培養コストを削減し、全体的な生産効率を大幅に向上させることが期待されます。この画期的な発見は、培養肉製品の風味や食感を向上させるだけでなく、生産コストを劇的に引き下げ、市場での競争力を高める上で極めて重要で

▶ 技術者の視点

Roslin InstituteによるCD13タンパク質の発見は、培養肉の商業化における最大の障壁であるコストと効率性の課題を解決する可能性を秘めています。脂肪生成能力が10倍以上向上するというデータは非常にインパクトが大きく、培養肉の風味や食感を向上させつつ、生産コストを劇的に削減できる可能性があります。ただし、この技術が商業規模で安定的に適用可能か、また規制当局の承認プロセス、消費者受容性といった課題は残ります。【機会】日本の食品メーカーや培養肉スタートアップは、この技術を早期に評価し、ライセンス導入や共同研究を検討すべきです。材料メーカーは、CD13陽性細胞の選別・培養に必要な培地、足場材料、バイオリクターなどの開発に貢献できます。【脅威】既存の食肉産業にとっては、培養肉のコスト競争力向上は中長期的な脅威となります。日本の培養肉開発企業は、この技術を取り入れなければ、国際競争で後れを取る可能性があります。【次のアクション】R&D;部門は、CD13マーカーを用いた幹細胞選別技術の原理と応用可能性を詳細に調査し、培養肉開発ロードマップへの組み込みを検討する。経営企画部門は、培養肉市場のコスト構造変化を予測し、自社の事業戦略への影響を評価すべきです。

その他の注目記事

Danaher 2026年第1四半期決算：バイオプロセス事業が好転、新診断ツールとAIが注目 (Outsourced Pharma)
技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●○

Danaherのバイオプロセス事業が回復し、CytivaがmRNA精製や自動灌流システムを発表。AI活用も強調されており、日本のバイオ医薬品製造における効率化とデジタル化の方向性を示唆する。

Rentschler Biopharma、AI駆動の自動化で迅速かつ正確な医薬品開発を推進 (Worcester Business Journal)
技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●○○

CDMO大手RentschlerがAIとロボットによる自動化を導入し、開発効率と精度を向上。日本のCDMOや製薬企業も、AI/自動化によるR&D;・製造プロセスの最適化を急ぐべき。

2026年、医薬品業界を変革する8つの主要バイオプロセス技術 (GHP News)
技術新規性●○○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○

シングルユース、デジタル変革、連続製造、AI/MLなど、バイオプロセス技術の主要トレンドを網羅。日本の製造業はこれらの技術を自社プロセスにどう取り込むか、ロードマップを再検討する必要がある。

WuXi Biologics、成都の微生物バイオ医薬品製造拠点の構造工事を完了 (BioSpace)
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○

WuXi Biologicsが中国に大規模微生物バイオ医薬品製造拠点を建設。グローバルCDMOの供給能力拡大は、日本の製薬企業の調達戦略や競争環境に影響を与える。

今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

■ 即時（今週中）

- 【R&D;】 in vivo CAR-T技術（#06）の原理と臨床データを緊急調査し、自社パイプラインへの影響を評価。
- 【経営企画】培養肉のコスト構造変化（#04）が食肉・食品市場に与える影響を分析し、事業戦略への示唆を抽出。
- 【調達】主要CDMO（#01, #08, #09）の最新設備投資と能力増強計画を把握し、サプライヤー選定基準を見直す。

■ 短期（1ヶ月）

- 【R&D;/製造】AI駆動自動化（#05, #10）によるR&D;・製造プロセスの効率化・精度向上に関するベンチマーク調査を実施し、導入可能性を検討。
- 【経営企画】バイオプロセス技術トレンド（#07）を基に、自社の技術ロードマップと投資計画をアップデート。特にmRNA製造（#10）関連技術に注目。
- 【材料開発】培養肉向け培地・足場材料（#04）や、バイオプロセス用消耗品（#02, #12）の市場ニーズを深掘りし、新製品開発の機会を探索。

■ 中長期（四半期～）

- 【経営層】 in vivo遺伝子治療（#06）がもたらす医療パラダイムシフトを見据え、長期的な事業ポートフォリオ戦略を再構築。
- 【R&D;】培養肉の商業化（#04）に向けた技術開発と規制対応を強化。異分野連携も視野に入れる。
- 【グローバル戦略】アジア地域のCDMO（#01, #08, #09, #11）との連携・競争戦略を策定し、グローバルサプライチェーンにおける日本の立ち位置を強化。

細胞培養技術 採用記事全文集

出力日: 2026-04-26

採用記事数: 12 件

収録記事一覧

1. 01. WuXi Biologics、成都の微生物バイオ医薬品製造拠点の構造工事を完了
2. 02. Sartorius Stedim Biotech、2026年度第1四半期に堅調な業績を報告
3. 03. LonzaとIsrael Biotech Fundが提携、バイオ医薬品・低分子医薬品の開発製造を支援
4. 04. Roslin Institute、特定の幹細胞タンパク質が培養脂肪生産を大幅に向上させる可能性を発見
5. 05. Rentschler Biopharma、AI駆動の自動化で迅速かつ正確な医薬品開発を推進
6. 06. Eli LillyがKelson Therapeuticsを買収、in vivo CAR-T細胞療法を推進
7. 07. 2026年、医薬品業界を変革する8つの主要バイオプロセス技術
8. 08. Samsung Biologics、2026年第1四半期に記録的な成長と戦略的な米国事業拡大を達成
9. 09. Andelyn BiosciencesとENCellが戦略的提携、遺伝子治療製造のグローバル展開を加速
10. 10. Danaher 2026年第1四半期決算：バイオプロセス事業が好転、新診断ツールとAIが注目
11. 11. コロンバイオテック、「バイオコリア2026」でバイオ医薬品CDMOの競争力をアピール
12. 12. Thermo Fisher Scientific、好調な四半期決算を発表 - ラボ製品とバイオファーマサービスが成長牽引

WuXi Biologics、成都の微生物バイオ医薬品製造拠点の構造工事を完了

公開日 2026年04月24日 BioSpace アメリカ



概要

WuXi Biologicsは、中国成都に建設中の微生物由来バイオ医薬品商業生産施設の構造工事が完了し、主要設備の搬入が開始されたと発表しました。この95,000平方メートルの施設は、微生物発酵による医薬品原薬および製剤の製造を目的としています。2026年末までにGMP稼働開始を目指しており、年間最大110バッチの原薬製造能力を持つ予定です。また、中国初のデュアルチャンバー凍結乾燥ラインや年間1,000万バイアル以上の充填ラインも導入され、高度な自動化とデジタルシステムが特徴です。

背景とプロジェクトの概要

グローバルな医薬品受託研究・開発・製造機関（CRDMO）であるWuXi Biologicsは、中国四川省成都市で進めていた微生物由来バイオ医薬品商業生産工場の建設において、建屋構造の完成と主要製造設備の搬入開始を発表しました。この戦略的な動きは、同社の微生物製造能力を大幅に拡大し、次世代治療薬に対する高まる世界的な需要に対応するためのものです。このプロジェクトは、バイオ医薬品製造における同社のリーダーシップをさらに強化することを目的としています。

主要な設備と能力

この新施設は95,000平方メートルという広大な敷地を誇り、微生物発酵によって生産される医薬品原薬および製剤の商業生産に特化して設計されています。主要設備として、初回15,000リットルの発酵槽が設置され、将来的には最大60,000リットルまで拡張可能な設計となっています。これにより、年間最大110バッチの原薬製造が可能となる見込みです。

- **大規模発酵能力:** 15,000リットルから最大60,000リットルまで拡張可能な発酵槽。
- **製剤製造:** 中国初のデュアルチャンバー凍結乾燥生産ライン（VISEN Pharmaceuticalsとの共同開発）、年間1,000万バイアル以上を処理できる充填ライン。
- **高効率な運用:** 統合された自動化およびデジタルシステムを全面的に導入し、効率向上と規制順守を徹底。
- **環境配慮:** グリーンビルディング機能も組み込まれており、持続可能性へのコミットメントも示されています。

業界への影響と展望

この施設の完成は、WuXi Biologicsがグローバルなバイオ医薬品サプライチェーンにおいて果たす役割を強化するだけでなく、微生物由来の治療薬の開発・製造プロセスに新たな基準を打ち立てるものと期待されます。特に、微生物培養は動物細胞培養と比較して培養期間が短く、コスト効率が高いという利点があり、インスリン、成長ホルモン、サイトカインなどの組換えタンパク質医薬品製造に広く利用されています。

この能力拡張により、同社はより広範な種類の治療薬に対応できるようになり、顧客企業は開発から商業化までのプロセスを迅速に進めることが可能になります。アジア太平洋地域におけるバイオ医薬品製造ハブとしての中国の地位を確固たるものにする上で、重要なマイルストーンとなるでしょう。

元記事: <https://www.biospace.com/press-releases/wuxi-biologics-chengdu-microbial-commercial-manufacturing-site-achieves-structural-completion-and-key-equipment-arrival>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Sartorius Stedim Biotech、2026年度第1四半期に堅調な業績を報告

公開日 2026年04月23日 Sartorius AG フランス



概要

バイオ医薬品業界の主要サプライヤーであるSartorius Stedim Biotechは、2026年度第1四半期に堅調な業績を達成したと発表しました。売上高は為替変動調整後で7.9%増の7億6,200万ユーロに達し、主にバイオプロセス用消耗品事業が好調を牽引しました。設備事業は想定通り軟調でしたが、第2四半期には改善が見込まれています。同社は2026年度通期の売上高成長率予測を6~10%に据え置き、調整後EBITDAマージンは31%をわずかに上回ると予想しています。

背景と市場状況

バイオ医薬品業界向けの主要な機器および消耗品サプライヤーであるSartorius Stedim Biotechは、2026年度第1四半期の業績を発表し、堅調なスタートを切ったことを報告しました。同社は、バイオテクノロジーおよびライフサイエンス分野における継続的な需要増という、全体的に好調な市場環境の恩恵を受けています。特に、個別化医療や先進的な治療法の開発が加速する中で、細胞培養技術やバイオプロセスソリューションへの需要が高まっています。

主要な業績ハイライト

Sartorius Stedim Biotechの2026年度第1四半期の売上高は7億6,200万ユーロに達し、為替変動調整後で前年同期比7.9%の堅実な成長を示しました。この成長は主に、バイオプロセス用消耗品事業の強力な需要に牽引されています。消耗品事業は、医薬品製造プロセスの柔軟性と効率性を高めるシングルユース技術などの製品が特に好調でした。

- **売上高:** 7億6,200万ユーロ（為替変動調整後7.9%増）。
- **事業セグメント:** 消耗品事業が売上を牽引。設備事業は予想通り軟調だったものの、第2四半期には改善を期待。
- **収益性:** 基盤となるEBITDAマージンは、一部の通貨逆風や関税の影響にもかかわらず、正のボリューム効果と規模効果により31%をわずかに上回ると予想。

同社は、通期の売上高成長率（為替変動調整後6～10%）とEBITDAマージン（31%をわずかに上回る）のガイダンスを維持しています。これは、同社がバイオプロセス市場における確固たる地位と、戦略的なポートフォリオの強さを反映していると言えます。

業界への影響と展望

Sartorius Stedim Biotechの堅調な業績は、バイオ医薬品業界全体が成長軌道にあることを示しています。特に、細胞培養培地、シングルユースバイオリクター、プロセス分析技術（PAT）などの分野への同社の継続的な投資は、業界の技術革新を支え、効率的な医薬品製造を可能にしています。

同社は、今後もバイオ医薬品開発のペースが加速する中で、CDMOや製薬企業に対して不可欠なソリューションを提供し続けるでしょう。設備投資の回復は今後の成長の鍵となり、特に新しいモダリティ（細胞・遺伝子治療など）の製造プロセスへの適応が重要視されます。

元記事: <https://www.sartorius.com/en/company/newsroom/corporate-news/2026-first-quarter-results-sartorius-stedim-biotech-1817704>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

LonzaとIsrael Biotech Fundが提携、バイオ医薬品・低分子医薬品の開発製造を支援

公開日 2026年04月24日 BioPharm International アメリカ



概要

大手CDMOであるLonzaは、Israel Biotech Fund (IBF) との2年間の提携契約を発表しました。この提携は、IBFのポートフォリオ企業におけるバイオ医薬品および低分子医薬品の開発と製造を加速させることを目的としています。Lonzaは、IBFのデューデリジェンス評価に対して戦略的なアドバイスを提供し、イスラエルにおけるバイオテクノロジーエコシステム内の製薬企業への支援を拡大します。この協力関係は、新興バイオ医薬品の商業化までの道のりを効率化すると期待されています。

提携の背景と目的

グローバルな医薬品受託開発製造機関（CDMO）であるLonzaは、イスラエルバイオテックファンド（IBF）との間で2年間の戦略的提携契約を締結しました。このパートナーシップの主要な目的は、IBFが投資するポートフォリオ企業が開発を進めるバイオ医薬品および低分子医薬品の、開発から製造に至るまでのプロセスを加速させることにあります。

Lonzaは、医薬品開発・製造における長年の専門知識と実績を活かし、IBFが候補となるバイオテクノロジー企業のデューデリジェンスを行う際に、戦略的アドバイスを提供します。これにより、有望な治療薬候補の評価がより精密かつ迅速に行われ、開発の初期段階から商業化を見据えた戦略が構築されることが期待されます。

提携による具体的なメリット

この提携は、イスラエルの活気あるバイオテクノロジーエコシステム内の製薬企業に対し、より広範なサポートを提供することを可能にします。具体的には以下の点が挙げられます。

- **開発の加速:** Lonzaの技術的専門知識と製造能力を活用することで、新薬候補の前臨床・臨床開発段階を効率的に進めることができます。
- **リスクの低減:** 経験豊富なCDMOの知見を取り入れることで、開発プロセスの潜在的な課題を早期に特定し、リスクを低減します。
- **商業化への道筋:** 開発初期から商業生産までを見据えた計画を立てることで、新興バイオ医薬品の市場投入までの時間を短縮し、成功率を高めます。
- **エコシステムの強化:** イスラエルのバイオテック企業は、グローバルリーダーであるLonzaのネットワークとリソースにアクセスできるようになり、国際的な競争力を強化できます。

業界への影響と今後の展望

この提携は、CDMOが投資ファンドと連携し、有望なスタートアップ企業の成長を支援する新しいビジネスモデルの一例として注目されます。特に、治療用アセットや破壊的プラットフォームの開発に注力する企業にとって、Lonzaのような大手CDMOからの戦略的サポートは極めて価値が高いと言えます。このような連携は、革新的な医薬品がより迅速に患者に届くよう、業界全体の効率化に貢献するでしょう。

今後、このような戦略的パートナーシップは、バイオ医薬品開発の複雑性を軽減し、イノベーションを推進するための重要な手段として、さらに拡大していく可能性があります。

元記事: <https://www.biopharminternational.com/view/lonza-ibf-collaborate-to-support-development-and-manufacturing-of-biologics-and-small-molecules>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Roslin Institute、特定の幹細胞タンパク質が培養脂肪生産を大幅に向上させる可能性を発見

公開日 2026年04月21日 The Poultry Site イギリス



概要

Roslin Instituteの研究者たちは、動物幹細胞に関連する特定のタンパク質が、培養脂肪の生産効率を大幅に高めることを発見しました。この発見は、培養肉業界が直面する高コストと非効率性の課題を解決し、大規模生産を可能にする可能性があります。研究では、表面タンパク質CD13を発現する牛の幹細胞が、発現しない細胞と比較して平均10倍以上の脂肪を生成することが明らかになりました。このマーカーを活用することで、培養肉の生産コストを大幅に削減し、商業化を加速させることが期待されます。

背景と培養肉の課題

培養肉産業は、持続可能な食料供給源としての大きな可能性を秘めていますが、現状では生産コストの高さと非効率性が大規模な商業化を阻む主要な課題となっています。特に、脂肪組織は肉の風味や食感を決定する重要な要素であり、その効率的な生産技術の確立が求められています。

イギリスのエディンバラ大学に属するRoslin Instituteの研究者たちは、この課題を克服するため、動物幹細胞の特性に着目した研究を進めてきました。彼らの目標は、幹細胞を効率的に脂肪細胞へと分化させるメカニズムを解明し、培養脂肪の生産プロセスを最適化することにあります。

主要な研究成果：CD13タンパク質の発見

今回の研究では、牛の幹細胞において、表面タンパク質CD13が脂肪細胞への分化能力と密接に関連していることが特定されました。研究チームは、高度な遺伝子解析と細胞培養技術を用いて、CD13を発現する細胞とそうでない細胞の分化能力を比較しました。

- **CD13発現細胞の優位性:** CD13陽性細胞は、このマーカーを持たない細胞と比較して、平均で10倍以上の脂肪を生成する能力を持つことが確認されました。
- **細胞の安定性:** CD13陽性細胞は、高い脂肪生成能力を持ちながらも、実験室条件下での増殖能力やハンドリング特性を維持できることが示されました。
- **コスト削減への貢献:** この発見により、脂肪細胞への分化能力が高い幹細胞を選別して培養することが可能となり、不要な細胞の培養コストを削減し、全体的な生産効率を大幅に向上させることが期待されます。

培養肉産業への影響と展望

Roslin Instituteのこの画期的な発見は、培養肉産業に革命をもたらす可能性を秘めています。脂肪生産の効率化は、培養肉製品の風味や食感を向上させるだけでなく、生産コストを劇的に引き下げ、市場での競争力を高める上で極めて重要です。

将来的に、このCD13マーカーを用いた幹細胞選別技術が商業規模で適用されれば、培養肉がより手頃な価格で広く普及し、持続可能な食料供給システムへの移行を加速させることが期待されます。これは、環境負荷の低減や動物福祉の向上にも貢献する重要な一歩となるでしょう。

元記事: <https://www.thepoultrysite.com/articles/the-roslin-institute-stem-cell-protein-may-boost-cultivated-fat-production>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Rentschler Biopharma、AI駆動の自動化で迅速かつ正確な医薬品開発を推進

公開日 2026年04月20日 Worcester Business Journal アメリカ



概要

CDMO大手Rentschler Biopharmaは、AI駆動の自動化を積極的に導入し、医薬品開発プロセスの効率化を図っています。同社のミルフォード施設では、液体ハンドリングロボットが導入され、サンプル調製や希釈といった反復作業を自動化しています。これにより、科学者はより高度な分析業務に集中でき、治療薬の開発期間を短縮することが可能になります。デジタル変革への戦略的投資は、競争の激しいCDMO市場において、より多くのデータと迅速な知見が求められる顧客ニーズに応えるために不可欠であると、同社は強調しています。

バイオ医薬品開発における自動化の重要性

現代のバイオ医薬品開発は、複雑性の増大と市場投入までの時間短縮への強い圧力に直面しています。特に受託開発製造機関（CDMO）は、クライアントからの高度な要求に応えるため、プロセスの効率化とデータ精度の向上が喫緊の課題となっています。このような背景から、Rentschler Biopharmaは、AI駆動の自動化技術を戦略的に導入し、競争優位性を確立しようとしています。

AI駆動自動化の導入と成果

Rentschler Biopharmaは、医薬品開発ワークフロー全体にわたる自動化の統合を積極的に進めています。その一環として、同社のミルフォード施設では、新しい液体ハンドリングロボットが導入されました。このロボットは、サンプル調製や希釈といった、これまで人手で行われていた反復的で時間のかかるタスクを自動化するために活用されています。

- **効率性の向上:** 自動化により、これらのタスクの実行速度と精度が飛躍的に向上し、全体的な開発プロセスの効率化に貢献しています。
- **研究者の再配置:** 反復作業から解放された科学者は、より付加価値の高い分析作業、実験設計、結果の解釈など、高度な知見を要する業務に集中できるようになります。
- **開発期間の短縮:** プロセス全体の効率化は、治療薬の開発期間を短縮し、新薬の市場投入を加速させることに直結します。

同社のグローバルIT責任者であるGerrick Rodrigues氏は、自動化を「継続的な改善と適応を目指す旅」と位置づけており、単なるコスト削減ではなく、品質とスピードを両立させるための戦略的投資であることを強調しています。

業界への影響と将来の展望

Rentschler Biopharmaのこの取り組みは、CDMO業界全体におけるデジタル変革の加速を示唆しています。AIと自動化の統合は、膨大なデータを効率的に処理し、より深い洞察を迅速に得ることを可能にします。これは、クライアントが求める「より多くのデータとより速い洞察」というニーズに応える上で不可欠です。

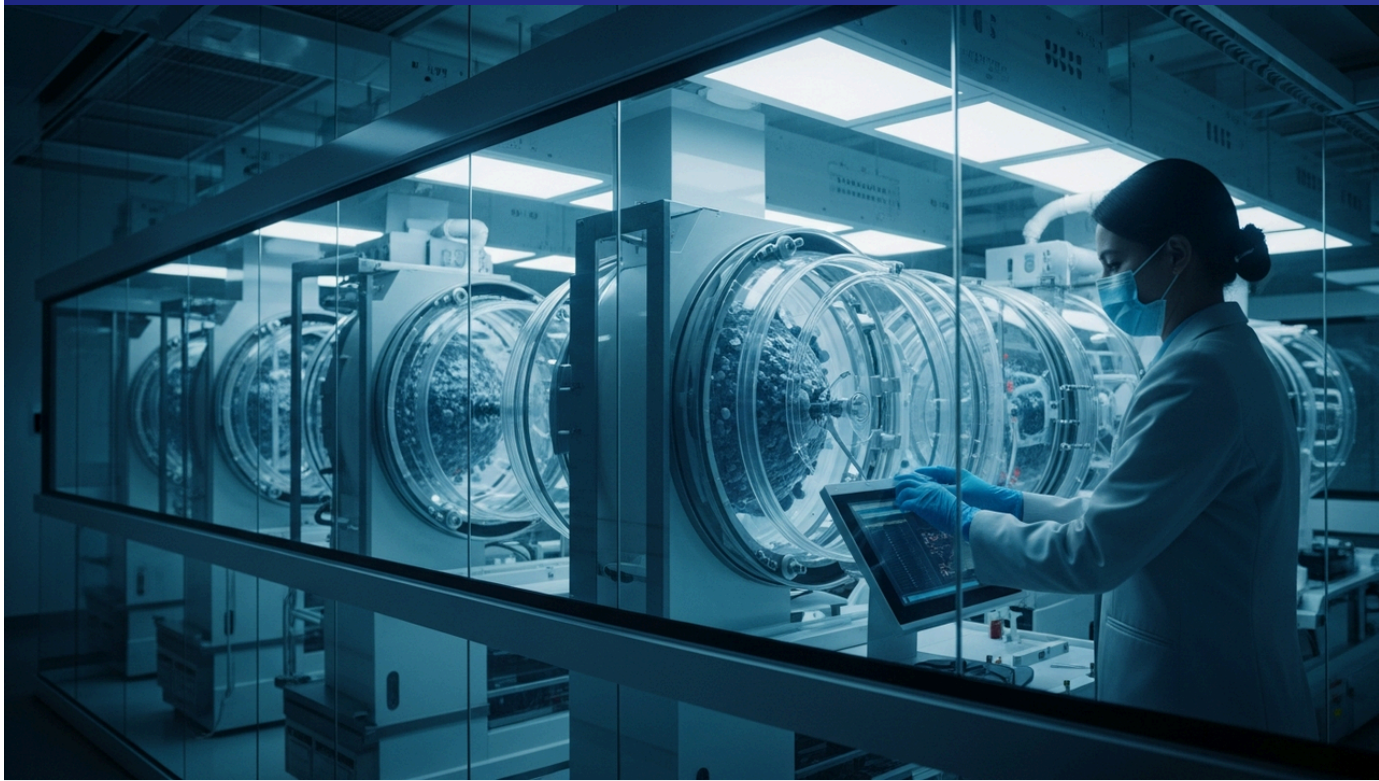
今後、バイオ医薬品製造における自動化とAIの導入はさらに進み、複雑な細胞培養プロセスの最適化、品質管理の強化、そして最終的には患者への新薬の迅速な提供に貢献していくでしょう。

元記事: <https://wbjournal.com/article/fast-accurate-drug-development-rentschler-biopharma-is-harnessing-ai-driven-automation-to-stay-competitive/>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Eli LillyがKelonia Therapeuticsを買収、in vivo CAR-T細胞療法を推進

公開日 2026年04月20日 Eli Lilly and Company (Press Release) アメリカ



概要

Eli Lilly and Companyは、in vivo遺伝子導入に特化した臨床段階のバイオテクノロジー企業であるKelonia Therapeuticsを買収する最終合意を発表しました。この買収により、Lillyの遺伝子医療能力はKelonia独自のiGPS0技術によって大幅に強化されます。iGPS0技術は、改変されたレンチウイルスベースの粒子を活用し、体内のT細胞を直接標的としてCAR-T細胞療法を生成します。Keloniaの主要プログラムであるKLN-1010は、再発・難治性多発性骨髄腫に対するin vivo遺伝子療法として、有望な初期臨床データを示しています。

買収の背景と目的

Eli Lilly and Companyは、in vivo（生体内）遺伝子導入技術に特化した臨床段階のバイオテクノロジー企業であるKelonia Therapeuticsを買収する最終的な合意に達しました。この戦略的買収は、Lillyが遺伝子医療分野におけるリーダーシップを強化し、特に革新的なCAR-T細胞療法のアプローチを自社のポートフォリオに組み入れることを目的としています。

従来のCAR-T細胞療法は、患者からT細胞を採取し、体外で遺伝子改変と増殖を行った後に体内に戻すという複雑なex vivo（体外）プロセスを必要とします。このプロセスは時間とコストがかかり、患者への負担も大きいという課題がありました。Lillyは、Keloniaの技術を取り入れることで、これらの課題を克服し、より簡便でアクセスしやすいCAR-T療法を実現しようとしています。

Keloniaのin vivo遺伝子導入システム（iGPS0）

Kelonia Therapeuticsが開発した独自のin vivo遺伝子導入システム（iGPS0）は、この買収の核となる技術です。iGPS0は、改変されたレンチウイルスベースの粒子を利用して、患者の体内でT細胞を特異的に標的とし、直接遺伝子を導入します。これにより、患者自身の免疫システムが体内でキメラ抗原受容体T細胞（CAR-T）を生成することが可能になります。

- **標的特異性:** iGPS0は、T細胞を高い精度で標的とするように設計されており、オフターゲット効果のリスクを低減します。
- **簡便性:** ex vivoでの細胞加工、増殖、そして前処置としての化学療法といった複雑なステップを不要にする画期的なアプローチです。
- **リードプログラムKLN-1010:** Keloniaの主要プログラムであるKLN-1010は、再発・難治性多発性骨髄腫を対象とした一回限りの静脈内遺伝子療法であり、抗BCMA CAR-T細胞を体内で生成します。2025年のASH年次総会で発表された初期臨床データは、良好な忍容性と初期の臨床的有効性を示し、その可能性が評価されています。

遺伝子医療とCAR-T療法の未来への影響

この買収は、遺伝子医療、特にCAR-T細胞療法の開発に大きな影響を与える可能性があります。in vivoアプローチは、製造の複雑さを解消し、治療コストを削減することで、より多くの患者にCAR-T療法を提供する道を開くかもしれません。

Lillyは、Keloniaの技術を統合することで、がん治療だけでなく、他の遺伝子疾患に対する治療法の開発にも応用範囲を広げることが期待されます。この動きは、個別化医療の進化を加速させ、次世代の革新的な治療法を患者に届けるための重要なステップとなるでしょう。

元記事: <https://keloniatx.com/lilly-to-acquire-kelonia-therapeutics-to-advance-in-vivo-car-t-cell-therapies/>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

2026年、医薬品業界を変革する8つの主要バイオプロセス技術

公開日 2026年04月24日 GHP News グローバル



8 major bioprocess technologies Transforming bioprocess industry in 2026

概要

パーソナライズド医療や先進バイオ医薬品への需要増大を受け、バイオ製造分野は大きな変革期を迎えています。本記事では、2026年に医薬品企業にとって重要となる8つの主要バイオプロセス技術に焦点を当てています。シングルユースシステムは汚染リスク低減や生産期間短縮に貢献し、デジタル変革はリアルタイムの意思決定とデータ統合を可能にします。Cytivaのような企業がこれらの技術革新を牽引し、ダウンストリームプロセスにおける精製技術の進展も、より高い純度と収率を実現するために不可欠とされています。

バイオ製造の変革期における背景

個別化治療、ワクチン、および高度な生物学的製剤に対する世界的な需要の増加に伴い、バイオ製造産業は大きな変革の時代に入っています。この進化は、医薬品製造プロセスの効率性、柔軟性、およびスケラビリティを向上させる新しい技術の採用によって推進されています。2026年時点において、製薬企業が競争力を維持し、次世代の治療法を市場に投入するためには、特定のバイオプロセス技術の導入が不可欠となっています。

医薬品産業を変革する主要技術

本記事では、2026年に医薬品産業において特に重要視される8つの主要バイオプロセス技術を解説しています。

- **シングルユースバイオプロセスシステム:** 汚染リスクの低減、運用上の柔軟性の向上、および広範な洗浄バリデーションが不要となることで、生産期間を短縮する利点を提供します。これにより、多品種少量生産や迅速な切り替えが求められる現代の製造環境に適応します。
- **デジタル変革:** 製造プロセス全体にわたるリアルタイムの意思決定、予測制御、およびデータ統合を可能にします。これにより、プロセス最適化、品質管理、および規制コンプライアンスの強化が図られます。Danaher傘下のCytivaのような企業が、統合されたデジタル対応システムを推進しています。
- **ダウンストリームプロセスの進化:** 高度なクロマトグラフィー樹脂や自動化された精製システムの導入は、複雑な生体分子の分離において、より高い純度と収率を達成するために不可欠です。これにより、製品の品質と製造効率が向上します。
- **連続製造:** バッチプロセスから連続プロセスへの移行は、生産効率を向上させ、設備フットプリントを縮小し、製品の一貫性を高める可能性を秘めています。
- **プロセス分析技術 (PAT) :** リアルタイムまたはインラインでの品質測定を可能にし、プロセス理解を深め、品質を設計に組み込むことで、最終製品テストへの依存度を低減します。
- **細胞・遺伝子治療向け特化型ソリューション:** 成長著しい細胞・遺伝子治療薬の特殊な要件に対応するため、クローズドシステム、自動化された細胞処理装置、専用の培地などが開発されています。

- **AIと機械学習:** プロセス最適化、異常検出、予測メンテナンス、および新薬候補のスクリーニングにおいて、データ駆動型のアプローチを可能にします。
- **サプライチェーンのレジリエンス:** グローバルなサプライチェーンの混乱リスクに対応するため、地域分散型の製造ネットワークや、より柔軟なサプライヤーとの連携が重視されます。

業界への影響と今後の展望

これらの技術革新は、医薬品製造のコスト効率、速度、および品質を劇的に向上させる潜在力を持っています。特に、シングルユース技術とデジタル化の融合は、バイオ医薬品の開発から商業生産までの道のりを効率化し、患者へのアクセスを改善する上で重要な役割を果たすでしょう。業界は、これらの技術を統合することで、より持続可能で柔軟な製造エコシステムを構築し、将来の医療ニーズに対応していくことが期待されます。

元記事: <https://ghpnews.digital/8-top-bioprocessing-technologies-transforming-pharma-in-2026/>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Samsung Biologics、2026年第1四半期に記録的な成長と戦略的な米国事業拡大を達成

公開日 2026年04月24日 Biotech Reality 韓国



概要

Samsung Biologicsは2026年第1四半期に、前年同期比25.8%増となる連結売上高1兆2,571億ウォンを達成し、記録的な成長を記録しました。この好調な業績は、既存の1~4工場のフル稼働と、米国メリーランド州ロックビル製造施設の買収による戦略的な事業拡大に支えられています。同社は、第2バイオキャンパスの建設やADC（抗体薬物複合体）製造能力の多様化を進め、グローバルCDMOとしての地位をさらに強化する計画です。

背景と堅調な業績

世界をリードする受託開発製造機関（CDMO）であるSamsung Biologicsは、2026年第1四半期に目覚ましい業績を達成しました。同社の連結売上高は1兆2,571億ウォンに達し、前年同期比で25.8%の大幅な増加を記録しました。また、営業利益も5,808億ウォンと35%成長し、好調な事業環境を反映しています。この成長は、仁川松島にある既存の1~4工場がフル稼働を維持したことが主な要因であり、同社の強固な製造能力と効率的な運営体制を示しています。

戦略的事業拡大とグローバル展開

Samsung Biologicsは、業績の好調に加え、グローバルな事業拡大戦略を積極的に推進しています。

- **米国製造拠点の取得:** 2026年3月には、米国メリーランド州ロックビルにある製造施設の買収を完了しました。これにより、同社は米国市場に初の物理的な製造拠点を獲得し、主要なバイオ医薬品クライアントクラスターへのアクセスを強化しました。この米国拠点と韓国松島を結ぶ「二元化生産体制」は、顧客対応速度と生産の柔軟性を同時に確保することを目的としています。
- **エンドツーエンド体制の確立:** 米国拠点の買収により、マスター細胞バンク（MCB）生産とベクター構築を内製化することが可能となり、ベクター構築からIND（新薬臨床試験開始）申請までを約9ヶ月で完了できるエンドツーエンドサービス体制が確立されました。
- **Bio Campus IIの建設:** 同社は、2032年までに仁川松島に「第2バイオキャンパス」（5~8工場）を完成させる壮大な構想を持っています。これは、既存の抗体医薬品だけでなく、細胞・遺伝子治療（CGT）、抗体ワクチン、ペプチドなど、需要が急速に増加している多様なモダリティに対応するための研究・生産施設群です。
- **ADC製造能力の強化:** 第1四半期には、抗体薬物複合体（ADC）向けの初の商業規模エンジニアリングランも成功裏に完了し、ADC治療薬製造における能力を多様化・強化しています。

業界への影響と今後の展望

Samsung Biologicsの継続的な成長と戦略的投資は、バイオ医薬品CDMO市場における同社のリーディングポジションを確固たるものにしていきます。グローバルな製造ネットワークの拡大と多様なモダリティへの対応能力の強化は、世界の製薬企業が新薬開発・製造を委託する際の選択肢を広げ、特に地域ごとのサプライチェーンのニーズに応える上で重要な役割を果たします。

同社は、2026年度通期の売上高成長率ガイダンスを15~20%に維持しており、今後も積極的な投資と技術革新を通じて、バイオ医薬品産業の発展に貢献していくと見られます。

元記事: <https://www.biotechreality.com/2026/04/samsung-biologics-q1-2026-results.html>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Andelyn BiosciencesとENCellが戦略的提携、遺伝子治療製造のグローバル展開を加速

公開日 2026年04月21日 BioSpace アメリカ



概要

米国のAndelyn Biosciencesと韓国のENCell Co., Ltd.は、遺伝子治療製造のグローバル展開を拡大する戦略的提携を発表しました。この提携は、米国とアジア太平洋地域（APAC）間にシームレスな製造回廊を構築し、両社のGMP製造施設、技術専門知識、広範な地域ネットワークを活用して、遺伝子治療のグローバルデリバリーを加速します。国際的な規制・物流の複雑さを解消し、各地域の患者ニーズに応じた効率的なサプライチェーン構築を目指します。

詳細

提携の背景と目的

米国を拠点とする細胞・遺伝子治療CDMOのAndelyn Biosciencesと、韓国の先進バイオ医薬品CDMOであるENCell Co., Ltd.は、遺伝子治療薬の製造能力をグローバルに拡大するための戦略的提携を締結しました。このパートナーシップは、急速に成長する遺伝子治療市場において、米国とアジア太平洋（APAC）地域の間に効率的でシームレスな製造サプライチェーンを確立することを主目的としています。

遺伝子治療薬の開発と製造は、高度な専門技術、厳格なGMP基準、そして複雑な規制要件を伴います。この提携は、両社の強みを組み合わせることで、これらの課題を克服し、革新的な治療法をより迅速に世界中の患者に届けることを目指しています。

提携による具体的な貢献

Andelyn BiosciencesとENCellの協業は、以下のような多岐にわたるメリットをもたらします。

- **グローバルな製造能力:** 両社の業界をリードするGMP製造施設を活用し、米国とAPAC地域での製造拠点を確立することで、地理的な障壁を低減します。
- **技術的専門知識の共有:** 各社の遺伝子治療製造における深い技術的専門知識を共有し、プロセス開発、分析法開発、および品質管理の最適化を図ります。
- **規制・物流の簡素化:** 国際的な拡大に伴う規制上の複雑さや物流上の課題を解消し、より簡素化された費用対効果の高い製造プラットフォームを提供します。これにより、クライアント企業は地域ごとの特性に合わせた供給戦略を構築しやすくなります。
- **地域サプライチェーンの強化:** 各国の臨床試験のための国内製造を促進することで、地域ごとの患者の特定のニーズに対応したサプライチェーンを構築し、リードタイムの短縮と商業化への道のりを加速させます。

業界への影響と今後の展望

この戦略的提携は、遺伝子治療CDMO業界におけるグローバル化のトレンドを象徴するものです。地域間の連携を強化することで、希少疾患やがんなど、緊急性の高い治療ニーズを持つ患者に対し、革新的な遺伝子治療薬をより迅速かつ効率的に提供することが可能になります。このような協力関係は、今後も遺伝子治療市場の成長を加速させ、より多くのイノベーションが実用化されるための基盤となるでしょう。

元記事: <https://www.biospace.com/press-releases/andelyn-biosciences-and-encell-co-ltd-announce-strategic-partnership-to-expand-global-reach-of-gene-therapy-manufacturing>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Danaher 2026年第1四半期決算：バイオプロセス事業が好転、新診断ツールとAIが注目

公開日 2026年04月24日 Outsourced Pharma アメリカ



概要

Danaher Corporationの2026年第1四半期決算は、バイオプロセス市場における重要な転換点を示しました。バイオプロセス機器の受注が前年同期比30%以上増加し、約2年ぶりにプラス成長を記録しました。この成長は、商業化された治療薬への堅調な需要によって牽引されています。Cytivaは、mRNA精製プラットフォームのFibro dTと次世代自動灌流システム（APS）を発表し、mRNA治療法の製造効率向上に貢献しています。AIの活用も、ラボマネジメントの未来において中心的な役割を果たすと期待されています。

背景：バイオプロセス市場の転換点

Danaher Corporationの2026年第1四半期決算報告は、バイオプロセス市場、特にラボマネジメントに関わる専門家にとって注目すべき変化を示しました。約2年間の軟調な期間を経て、バイオプロセス機器の受注が前年同期比で30%以上増加し、市場の明確な好転が確認されました。この回復は、既に商業化されている治療薬に対する堅調な需要に支えられており、バイオプロセス消耗品も一桁台後半の成長を達成しています。

主要な技術革新と製品発表

Danaher傘下の主要ブランドであるCytivaは、この好調な市場状況を背景に、いくつかの革新的な新製品と技術を発表しました。これらの技術は、特にmRNAベースの治療法の製造効率と速度を向上させることを目的としています。

- **Fibro dT mRNA精製プラットフォーム:** この新プラットフォームは、mRNA治療薬の製造における精製プロセスを最適化し、高い純度と収率を実現することで、製造コストの削減と生産リードタイムの短縮に貢献します。
- **次世代自動灌流システム (APS) :** プロセス強化を目的としたAPSは、細胞培養プロセスにおいて、製品損失やフィルター詰まりなどの一般的な課題を解決することを目指しています。これにより、細胞培養の安定性と生産性が向上し、製造全体の効率が高まります。

これらの技術は、mRNAベースの治療法やワクチンが世界的に普及する中で、その製造ボトルネックを解消し、より多くの患者にアクセス可能とするための重要な一歩となります。

AIとデジタル化がもたらす影響

Danaherの決算報告は、AI（人工知能）がラボマネジメントとバイオプロセス最適化において中心的な役割を果たす未来を強調しています。AIは、データ分析、プロセス制御、および予測モデリングを通じて、研究開発から製造までの全ての段階で効率と精度を向上させる潜在能力を持っています。例えば、AIは細胞培養条件の最適化、品質異常の早期検出、および製造スケールの予測に利用されることで、よりスマートで自律的なラボ運用を実現するでしょう。

バイオプロセス事業の好転は、業界全体がパンデミック後の調整期を終え、新たな成長フェーズに入ったことを示唆しています。Cytivaのような企業の技術革新とAIの統合は、今後のバイオ医薬品製造の発展を大きく加速させることでしょう。

元記事: <https://www.labmanager.com/what-danaher-s-q1-2026-earnings-mean-for-lab-managers-bioprocessing-turns-a-corner-new-diagnostics-tools-arrive-and-ai-takes-center-stage-35279>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

コロンバイオテック、「バイオコリア2026」でバイオ医薬品CDMOの競争力をアピール

公開日 2026年04月23日 韓国経済 (Hankook Ilbo) 韓国



概要

コロン生命科学の子会社であるコロンバイオテックは、2026年4月28日から30日までソウルで開催される「バイオコリア2026」に参加し、新規顧客開拓と協業拡大を目指すと発表しました。同社は、20年以上の生産経験とGMP製造インフラを活かし、細胞治療剤、遺伝子治療剤、エクソソーム治療剤などの先端バイオ医薬品分野における強みを強調します。特に、初期開発から商業生産まで一貫した「全周期サービス」能力をアピールする予定です。

背景と「バイオコリア2026」への参加

コオロン生命科学の子会社であるコオロンバイオテックは、ソウルで2026年4月28日から30日に開催される国際的なバイオ産業イベント「バイオコリア2026」への参加を発表しました。同社は、このイベントを新たな顧客を獲得し、戦略的な協業機会を拡大するための重要なプラットフォームと位置付けています。コオロンバイオテックは、特に細胞治療剤、遺伝子治療剤、エクソソーム治療剤といった先端バイオ医薬品分野における、長年の経験と確固たる製造基盤を国内外のパートナーにアピールする計画です。

コオロンバイオテックの主要な強みとサービス

コオロンバイオテックは、20年以上にわたるバイオ医薬品製造の経験と、国際基準に準拠したGMP（Good Manufacturing Practice）製造インフラを保有しています。これにより、同社は幅広いバイオ医薬品モダリティに対応可能です。

- **全周期サービス（End-to-End）**：初期開発段階から前臨床、臨床試験、そして商業生産に至るまで、医薬品開発の全プロセスを一貫してサポートする能力を提供します。これにより、クライアント企業は開発の各段階で異なるCDMOを探す手間とリスクを軽減できます。
- **先端バイオ医薬品への対応**：細胞治療剤、遺伝子治療剤、エクソソーム治療剤といった、次世代のバイオ医薬品の製造に特化した専門知識と設備を有しています。これらのモダリティは複雑な製造プロセスを必要とするため、専門性の高いCDMOが不可欠です。
- **2D自動化閉鎖プラットフォーム**：後期臨床および商業化段階の企業向けには、汚染リスクを最小限に抑えつつ、高品質で高収率の生産を実現する「2D自動化閉鎖プラットフォーム」技術を提案します。これは、特に細胞治療などのデリケートな製品において、製品の安全性と有効性を保証する上で極めて重要です。

業界への影響と今後の展望

コロンバイオテックの「バイオコリア2026」への参加は、韓国のCDMO企業がグローバル市場での存在感を高めようとする動きの一環です。細胞・遺伝子治療分野の急速な成長を背景に、専門的な製造能力を持つCDMOへの需要は今後も増加すると予想されます。同社の包括的なサービスと先進技術は、新たなバイオ医薬品の市場投入を加速させ、患者へのアクセスを改善することに貢献するでしょう。このような企業の取り組みは、アジア地域のバイオ医薬品エコシステムの発展を促進する上で重要な役割を果たします。

元記事: #

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Thermo Fisher Scientific、好調な四半期決算を発表 – ラボ製品とバイオファーマサービスが成長牽引

公開日 2026年04月23日 Reuters アメリカ



概要

Thermo Fisher Scientificは、2026年第1四半期においてウォール街の予想を上回る利益と売上高を記録しました。これは、同社のラボ製品およびバイオ医薬品サービス事業の堅調な成長が牽引したものです。調整後1株当たり利益は5.44ドル、四半期売上高は110.1億ドルに達し、アナリストの予測を上回りました。パンデミック後の小規模バイオテクノロジー企業への資金提供の慎重さがある一方で、医薬品研究・製造に関連する需要は安定化の兆しを見せており、特にバイオプロセスツールへの強い需要が示されています。

背景と市場状況

科学サービス分野の世界的リーダーであるThermo Fisher Scientificは、2026年第1四半期に堅調な業績を発表し、ウォール街の期待を上回る利益と売上高を記録しました。この好調なパフォーマンスは、同社の多様な事業ポートフォリオ、特にラボ製品およびバイオ医薬品サービス部門の成長に支えられています。

パンデミック後の市場環境では、小規模バイオテクノロジー企業への資金提供が慎重になり、学術研究資金の伸びが鈍化するという課題が見られていました。しかし、主要製薬企業による医薬品の研究開発および製造活動は安定化の兆しを見せており、この動向がThermo Fisher Scientificの業績に好影響を与えています。

主要な業績ハイライトと成長分野

Thermo Fisher Scientificの2026年第1四半期の財務結果は、同社の強固な市場地位と戦略的な事業展開を反映しています。

- **財務実績:** 四半期調整後1株当たり利益は5.44ドル、四半期売上高は110.1億ドルを記録し、いずれもアナリストの予測を上回りました。
- **ラボ製品部門の成長:** 研究機関や産業界向けの幅広いラボ機器、試薬、消耗品を提供しており、継続的なイノベーションと製品ラインナップの拡充が売上を牽引しました。
- **バイオ医薬品サービス部門の貢献:** 医薬品開発から製造受託までを支援するサービスが好調でした。特に、バイオ医薬品製造プロセスで使用されるツールや材料への需要が非常に強く、これはバイオ医薬品産業全体の活動が活発であることを示唆しています。
- **バイオペロセスツールの需要:** 抗体医薬品、ワクチン、細胞・遺伝子治療薬などの生産に必要なバイオペロセスツールは、引き続き高い需要を享受しており、同社の成長ドライバーの一つとなっています。

業界への影響と今後の展望

Thermo Fisher Scientificの好調な決算は、ライフサイエンスおよびバイオ医薬品業界が全体として回復基調にあることを示しています。同社は、幅広い製品とサービスを通じて、医薬品開発のあらゆる段階を支援しており、その事業の多様性は市場の変動に対するレジリエンスを提供します。

今後も、先進的な治療法の開発と製造が加速する中で、ラボソリューション、診断、ライフサイエンスツール、およびバイオ医薬品サービスを提供するThermo Fisher Scientificのような企業は、業界の成長を支える不可欠な存在であり続けるでしょう。技術革新とグローバルな展開を通じて、同社は患者の健康増進に貢献していくことが期待されます。

元記事: <https://www.investing.com/news/stock-market-news/thermo-fisher-posts-quarterly-results-beat-as-lab-products-biopharma-services-grow-4631881>

収集日: 2026年04月25日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)